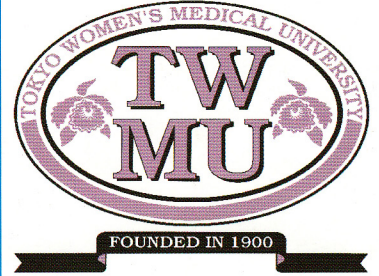


2005

No. 1
May

メデイカルネットワーク

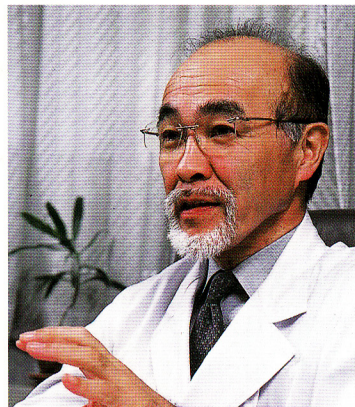
発行 東京女子医科大学附属第二病院 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111 F A X 03-3894-0282 http://www.twmu.ac.jp/DNH/index.html.

ご挨拶

第二病院（本年10月1日に東医療センターに改称予定）は71年前の1934年（昭和9年）7月1日に東京女子医学専門学校尾久病院の開設により始まりました。1936年（昭和11年）4月に名称が「東京女子医学専門学校第二病院」と改称されました。

その後先輩の叡智と努力により、着実なそして大きな発展をしてきました。

そして発展し続けています。現在の診療科は内科（大学としては画期的な分割されない単科であり、患者様をトータルに診療しています）、精神科（心の医療科と呼称してイメージを変える努力を行っています。外来診療のみ）、小児科、外科（大学では画期的な分割されない単科であり、消化器、乳腺を中心に、患者様をトータルに診療しています）、整形外科（リウマチ科を併設しています）、形成外科（美容外科を展開しています）、脳神経外科、心臓血管外科（呼吸器外

東京女子医科大学
附属第二病院

病院長 井上 和彦

科を併設しています）、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、（周産期新生児部門を併設しています）、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科（ペインクリニックを併設しています）、救急医療科、歯科口腔外科があります。

中央部門としては救命救急センター、救急診療部、検査科、病院病理科、輸血部、在宅医療部、リハビリテーション部、血液浄化部、地域連携室、ME室、薬剤部、看護部、医療安全対策室、卒後臨床研修センター、事務部、安全衛生管理室、医療情報映像室があります。

当院は平成16年3月に東病棟（343床）が新築され、病院の大部分が近代化されました。画像診断棟が新築され、最新のMRIも導入されます。1号館の内科、小児科そして皮膚科の病棟と整形外科、小児科、耳鼻咽喉科そして皮膚科の外来が改築され、CT室が移動し、最新のCTが1台導入されます。そして、内視鏡センター（仮）と物流センターが新築されます。

その後も1、2、3号館を解体し、新病棟、新事務棟を建築するまで、今後約10年にわたって工事が行われます。その点当院はいつもどこかで工事があり、ご来院の皆様には何かとご迷惑をおかけすることがあることを、あらかじめお詫びもうしあげます。より良い、より安全な医療を目指して最大級の努力を致します。

ご支援をよろしくお願い致します。



外来棟



東病棟

東病棟ご紹介 外科部門

外科 助教授 清水 忠夫



昨年3月オープンした東病棟は、旧病棟（1号館）からみると巨大な客船さながらの概観です。

1号館と渡り廊下でつながり、向かって左をA病棟、右をB病棟と言います。

救急救命センター、手術室・ICUを備えた外科系診療科中心の病棟で、新たに周産期センターが開設されました。地域周産期医療の中核として期待されています。

外科病棟は4階にあります。A病棟に55床、B病棟に16床の計71床を有しています。病床数が17床増えたことから、疾患別に食道・門亢症、胃、肝・胆道・膵、大腸・肛門、乳腺の5班体制でより効率的に専門性を高めた分かりやすい診療に努めています。

他の病棟は、図に示したごとく、1階に救命救急センター20床、2階に産婦人科59床・周産期センター18床、3階がA病棟に泌尿器科18床、耳鼻咽喉科17床、眼科12床、形成外科9床、B病棟に整形外科39床、救急医療科10床となっています。4階は外科と脳神経外科29床、5階には心臓血管外科28床、歯科口腔外科5床、ICU8床があります。手術室は7室で、旧病棟からみればその環境は著しく快適になりました。

昨年度の手術件数は外科685件、整形外科611件、眼科576件、泌尿器科325件、耳鼻咽喉科309件、形成外科233件、産婦人科231件、心臓血管外科223件、産科162件、脳神経外科157件、



手術室

その他176件で計3,688件でした。そのうち緊急手術は565件ありました。

ほぼ手術室はフル稼働ですが、安全な医療が提供できるようスタッフ一丸となって安全管理につとめております。

最後に、夜間・休日の外科系一次・二次救急を外科系全科で対応する体制をとっていることをお知らせいたします。

研修指導医当直というかたちではじめて1年ですが、試行錯誤を繰り返しよりよい体制で地域医療に貢献していきたいと存じます。

今後も病診連携に努めてまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

(東病棟各科案内図)

	A	EV	B
5F	心臓血管外科(28) 歯科口腔外科(5)		手術部 ICU(8)
4F	外科(55)		外科(16) 脳神経外科(29)
3F	泌尿器科(18) 眼科(12) 耳鼻咽喉科(17) 形成外科(9)		整形外科(39) 救急医療科(10)
2F	産婦人科(59)		周産期センター NICU(6) GCU(12)
1F	栄養課・厨房 職員食堂		救命救急センター(20) 救急外来
B1	薬剤部		病院病理科 血液浄化部 輸血部

看護部門

看護部 副部長 立石 早苗



待望の東病棟が開設されて早くも1年が経ちました。東病棟を紹介致しますと地下1階地上5階の建物は南北に120mと長く、隣接した宮前児童遊園地から眺めると雄大で壮観な建物です。

病棟を訪ねてまず一番に感じるのはい長い廊下です。働く者にとっては導線が長くなりましたが、その長さが広々とした空間に感じられます。

私たち看護職員は、病室は患者様の生活の場として安全で快適であることを念頭に準備しました。

患者様が1日の大半を過ごされるベットは低床25cmの電動ベットに体圧分散マットレスです。ベット周囲の備品もテレビとキーボックス付き床頭台等使用される側の身になって整えました。デイルームには冷蔵庫ロッカーやインターネットコーナーも設けました。

またどこにいても対応できるナースコールや他の部署間との物品の搬送にメッセージャーを配置するなど従来のシステムを改善して、導線の長さが看護サービス

の低下にならないように配慮しました。他の施設面ではまずこれまで狭い場所で、やりくりをしていた中央材料部が一新された事です。スペースもさることながら多層式洗浄器・両面開きのオートクレーブ・プラズマ滅菌機を設置したことです。

手術室や病棟・外来で使用された医療器具は一次消毒する事なく密封コンテナで中央材料部へ搬送すれば多層式洗浄器で洗浄してセットし滅菌して払いだされるシステムで、安全且つ効率のよい方法へと変更になりました。その中で私達看護職員は立派になった建物に劣ることがないよう「病院の顔は看護師である」と自負し、看護ケアの向上をはかり個々の患者様に満足していただけるようなきめ細かなサービスを提供して、ますます地域に信頼、愛される病院になる努力を続けて行きます。



周産期センター

周産期センター

産婦人科教授・周産期センター長 高木 耕一郎



当院周産期センターは平成16年4月1日に新しく建築された東病棟2階に開設されました。同年9月1日からは東京都の地域周産期母子医療センターとしての認可を受けたことにより、本学は河田町の女子医大母子総合医療センター

とともに、大学病院で唯一、総合周産期センターと地域周産期センターの両方をもつことになりました。当院は歴史的には戦後数年して始まったベビーブームの頃に産院を中心に発展し、尾久産院の名前で親しまれて来ました。その後も男性医師中心の産婦人科の世界の中で、女性医師を中心に、きめ細やかな妊婦分娩管理で定評をいただけてまいりました。当院で出産される方は荒川区、足立区、北区からいらっしゃる方が多いのですが、当院は総合病院であることから、これまでも妊婦高血圧症候群や切迫早産、糖尿病合併妊婦

などハイリスク妊婦の患者様が多く、当科で妊婦の管理をしても、早産となりそうな場合には、母体搬送とって出産前に、周産期センターを持った他の医療施設に移っていただかなくてはならないこともしばしばでした。しかし、この度の周産期センターの開設により、私共の施設において、他科との密なる連携のもとに継続的な母児管理が出来るようになったので、今まで以上に地域のニーズに応えることが出来るようになりました。周産期センターは母性部門（産婦人科の産科部門30床）と新生児部門からなります。新生児部門は、当院小児科の協力を得て、NICU（重症ベット6床、後方ベット12床）を擁し、早期産で生まれた小さな赤ちゃんや病気を抱えて生まれた赤ちゃんに最新の医療を提供する部門です。当院の周産期センターは、母子の幸せを願って産科医・小児科医（新生児部門）が忌憚なく意見を交わすという周産期医療の原点に立ち返り、毎週1回、定期的で開催される周産期カンファレンスの場で互いを切磋琢磨しつつ、地域の皆様に愛されるセンターを目指しております。

